

甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018 年度秋入学・2019 年度春入学
一般入学試験（A 日程・7 月 8 日分）

試験科目：憲法

1. 出題趣旨

《 第 1 問 》

憲法の重要判例の正確な理解を基にして、類似事例について、共通点と相違点に留意しつつ、考察できるかどうかを問う問題である。設問 1 で、参照すべき最高裁判例を挙げ、判例の基礎知識を示すこと、設問 2 で類似事案について検討することを求めている。

本問では旭川学力テスト事件最高裁判決（最大判昭和 51 年 5 月 21 日）を参照することになるが、事実関係の違いが大きいため、問題文で参照すべき判例を明示している。

判例の立場は次の通りであった。①普通教育の教師の教授の自由は一定範囲で認められるが、それは完全な教授の自由ではない。②国家は「必要かつ相当と認められる範囲において、教育内容についてもこれを決定する権能を有する」。

以上を前提に、本問事実に基づいて、X 側の主張を展開することが求められる。具体的には、本問職務命令が必要かつ相当な範囲を超えるという主張を、本問事実に基づいて展開することになる。

《 第 2 問 》

統治分野の基礎知識を問う問題である。

2. 採点実感

挙げるべき判例を明示したにもかかわらず、判例の趣旨を再現できない答案が多かった。

3. 学習方法

当然のことだが、基礎知識を身につけるための作業は必須である。特に、法曹を目指す人は判例学習をおろそかにすべきではない。判例は、判決等の論理だけでなく、事実の概要を踏まえて分析、理解、暗記する必要がある